

王なるメシヤへの従順

詩編二編

(日)

畏れつつ、主に仕えよ。震えつつ、喜び躍れ。子に口づけせよ。……幸いな者、すべて主のもとに逃れる人は。(11、12)

この詩は、神が立てられた王に従うことが幸いの道であることを教えています。この詩は、イエス・キリストにおいて成就したと教会は受け止めてきました。主イエスが受洗されたとき、この7節の言葉に基づいて、「これは私の愛する子」(マタイ三17)という声がかけられました。主イエスこそ、神によって油注がれた真の王であり、メシアであるという宣言でした。教会の祝福は、王なるキリストに仕えていくところにあります。真の王に逆らって自分たちが王となってしまうことがないように、自分たちの歩みを振り返り、キリストを王として正しく位置づけることが求められています。ただ主イエスだけを王として礼拝し、仕えていくところに教会の祝福があるからです。この年も、ただ主イエスだけを王として畏れ敬い、喜びをもって仕えていく私たちの教会でありたいと心から願います。